

簡単にできる、園芸用土の再生法

古くなった土も、少しの手間で有効に再生利用できます。
植物と同じく、土も貴重な自然の恵みです。大切に利用しましょう。

1 残さ(葉、根、茎)を取り除きます

用土をビニールシート上に広げ、残さを取り除きます。



※残さは乾燥させてから細かく刻み、容器の底に入れ、土の改良材とします。ただし、病気になるもの、虫の付いたものは使用せず、土をよく払った上で必ず「一般ごみ」として捨ててください。

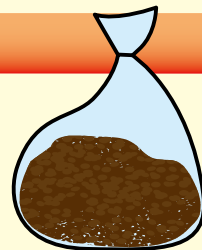
2 用土をよく湿らせ袋に入れます

用土は、手で握ると塊ができる位に、よく湿らせてからビニール袋に入れます。
用土が乾いていると熱が全体に伝わらないので注意します。



3 袋の口を締めます

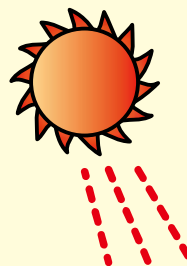
ビニール袋は空気や用土がこぼれないように口をしっかり締めます。



4 用土を日に当てます

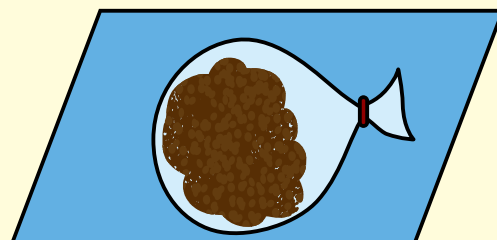
ビニール袋をなるべく平たく伸ばし、日光の当たる場所に置き、太陽の熱と水蒸気により殺虫、殺菌をします。

夏なら10日～15日、冬なら1ヶ月程度が目安です。



※途中でビニール袋を裏返すと効果的です。

※袋は黒色の方が、また、コンクリートの上に置いた方がより効果的です。



5 必要なものを補います

殺虫、殺菌後の用土には、植物の育成に必要な微生物などもなくなっています。用土の状態に合わせ、土壌再生用の微生物材や腐葉土を入れます。

